

平成 30 年度(2018 年度)

日本特別活動学会 第 5 回 実践事例募集事業

推 奨 実 践 事 例

事例番号 5 - 4

小学校学級活動(1)の授業評価研究

小金井市立小金井第二小学校 眞 壁 玲 子

実践テーマ	小学校学級活動(1)の授業評価研究
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童会・生徒会活動 クラブ活動 学校行事 その他(具体的に、)
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	<p><背景> 特別活動においては、平成 29 年に告示された小学校学習指導要領が、平成 30 年度から全面実施となった。本校では、特別活動の全体計画を作成し、これに基づいて学級活動の指導を行っている。中央審議会から指導と評価の一体化が示されている。しかし、まだ国立教育研究所から「評価基準の作成のための参考資料」が示されていない。そこで、特別活動の取り組みが盛んな本校において、日本特別活動学会の林尚示先生、安井一郎先生、鈴木樹先生にご協力をいただきながら、評価シートを作成し、活用した授業改善に取り組んだ。評価シートは、指導要領に示されている資質・能力に 3 つの視点をクロスさせ、9 つの項目で作成・活用することで、児童の資質・能力をバランスよく育てることができるのではないかと仮説を立て、PDCA のサイクルで授業改善を行った。</p> <p><ねらい> 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「学級活動で育成される資質・能力の育成と評価」について、学級活動の振り返りシートを作成し、エビデンスに基づく学級活動の振り返りを行い、教師の授業改善につなげること。</p> <p><意義> 指導と評価の充実を図ることで学習指導要領のめざす資質・能力を子供たちに育む。</p>
実践の時期	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

【実践事例】

1. 主題 「学級活動において資質・能力をバランスよく育てる指導の工夫」 ～評価シートの活用を通して～

2. 研究の目的

平成 29 年に告示された新学習指導要領に示す内容が児童一人一人に確実に身に付いているかどうかを適切に評価し、その後の学習指導の改善に活かしていくと共に、学校の教育活動全体の改善に結びつけていく。

3. 研究の背景

特別活動においては、平成 29 年に告示された小学校学習指導要領が、平成 30 年度から全面実施となった。本校では、特別活動の全体計画を作成し、これに基づいて学級活動の指導を行っている。中央審議会から指導と評価の一体化が示されている。

しかし、29 年度現在、国立教育研究所から「評価基準の作成のための参考資料」が示されていない。そこで特別活動の取り組みが盛んな本校において、日本特別活動学会の林尚示先生、安井一郎先生、鈴木樹先生にご協力をいただきながら、評価シートを作成・活用した授業改善に取り組んだ。評価シートは、学習指導要領に示されている資質・能力に 3 つの視点をクロスさせ、9 つの項目で作成・活用することで、児童の資質・能力をバランスよく育てることができるのではないかと仮説を立てた。

(評価項目)

1	相手の思いを受け止めたり聴いたり、相手の立場や考え方を理解する。
2	みんなで活動するためのルールを守る。
3	学級に自分のよさや可能性を活かすことができる。
4	互いの意見に折り合いを付けながら話し合いで決めることができる。
5	解決するためにみんなで力を合わせて話し合いができる。
6	集団の一員であることを考え、集団で決定することができる。
7	よりよい学級生活のために自主的に行動することができる。
8	よりよい学級にするために進んで自分の役割を果たすことができる。
9	希望や目標をもって生活している。

4. 実践方法

6 年 A 組において年間 35 時間の学級活動の内、各学期 1 回で年 3 回の研究授業を行う。授業の前後に児童が評価シートを実施する。結果を分析し、評価の低かった項目を高める授業を意図的に行うことで、児童の資質・能力をバランスよく育成できたか検証する。

質問紙の構成

特別活動における3つの視点				
	人間関係形成	社会参画	自己実現	
特別活動で育成をめざす資質・能力	知識および技能	1	2	3
	思考力、判断力、表現力等	4	5	6
	学びに向かう力、人間性等	7	8	9

5. 一学期の実践

(1) 議題 「1学期のお楽しみ会の計画を立てよう」学級活動(1)

(2) 児童の実態と議題選定の理由

話し合い活動は、5年生から同じ流れで行ってきている。意見を一つにまとめることがうまくいかないこともあるので、合意形成の力を付けていきたい。

(3) 本時の展開

①ねらい・学級がより仲良くなれるようなお楽しみ会の計画を立てることができる。

②展開

具体的な学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
1. 始めの言葉 2. 司会グループの紹介 3. 議題の確認	・事前に司会グループに司会の仕事を確認しておく。	
1学期のお楽しみ会の計画を立てよう		
4. 提案理由の確認 5. めあてや決まっていることの確認 6. 話し合い ① どんな種目をするか。 ② どんな工夫ができるか。 ③ どんな係が必要か。 7. 決まったことの確認	・提案理由に沿った話し合いになるように、助言する。 ・遊びの条件を確認する。 ・話し合いの流れがわかるように板書をする。 ・司会グループが困っている時は、助言する。	【知・技】話し合いの進め方や約束を理解している。(観察) 【思】提案理由を踏まえて発言している。(観察・カード) 【人】よりよい活動にするために進んで行動しようとしている。(観察・カード)
8. 振り返り 9. 先生の話 10. 終わりの言葉	・提案理由を意識した発言や意欲的に参加していた児童を賞賛する。	

* 学級会では、「野球をしたい」という意見と「サッカーをしたい」という意見に分かれたが、折り合いをつけてキックベースに決まった。リレーは、「みんなが楽しめるように」というめあてに照らし合わせ、障害物リレーと決まった。めあてに沿って話し合い、決まった内容を実践することで85%の児童が満足と感じていた。

(4) 一学期の評価シートの分析と二学期の授業で向上させたい項目

授業後の評価シートの結果は、全項目とも概ねよかった。特に「できた」の割合が高かったのは「⑨希望や目標をもって生活している」「②みんなで活動するためのルールを守れる」で90%だった。一方「③学級に自分のよさや可能性を活かすことができる」が75%と全項目の中で低かったので二学期は③を高めることとした。

6. 二学期の実践

(1) 議題 「タイムカプセルに入れるものを決めよう」学級活動(1)

(2) 児童の実態と議題選定の理由

小学校生活最後の思い出に残るものをつくる計画を立てることを通して、学級に自分のよさや可能性を活かそうとする力を向上させていきたい。

(3) 本時の展開

①ねらい・思い出に残るものをタイムカプセルに入れるものとして決める。

②展開（省略）

* 学級会の前に中学校生活へのガイダンスを行い、その後、学級会を行った。様々な意見が出されたが、最終的には小学校時代に学級で頑張って取り組んだものや、10年後の自分へのメッセージなどを入れることに決定した。

(4) 二学期の評価シートの分析を基に三学期の授業で向上させたい項目

授業後の評価シートの結果は、全ての項目で1学期より「できた」の割合が増えた。特に高かったのは「②みんなで活動するためのルールを守れる」95%、「⑥集団の一員であることを考え、集団で決定することができる」92.5%、「⑨希望や目標をもって生活している」92.5%だった。また今回、改善を目指した「③学級に自分のよさや可能性を活かすことができる」が75%から82.5%に向上した。9項目の中で「できた」の割合が一番低かった「⑧」80%の向上を目指す。

7. 三学期の実践

(1) 議題「お世話になった二小に恩返しの気持ちを表そう」

(2) 児童の実態と議題選定の理由

卒業に向け、お世話になった学校に恩返しの気持ちを込め、クラスでできることを話し合い、よりよい学級にするために進んで自分の役割を果たす力を向上させたい。



階段アート

(3) 本時の展開（省略）

* 全学年へのメッセージ、5年生へのアドバイス、思い出に残るアート等、可能な限り多くの意見を取り入れた「階段アート」に決定した。

(4) 3学期の評価シートの分析

全項目の「できた」割合が全て増加し、項目⑧は80%から87.5%に増加した。本学級としては上昇したが、対象が小人数のため統計的な有意差は顕著に表れなかった。

8. まとめ

評価シートを活用し、指導と評価の一体化を図りながら意図的・計画的な指導を行うことで、学級活動でめざす資質・能力を児童にバランスよく育てることができた。このことは学校目標の達成に貢献し、学校運営上の成果である。

9. 今後の課題 振り返りシートをより活用しやすいものに改良すること。

10. 参考文献 林尚示・安井一郎・鈴木樹「特別活動で社会的資質を育成するための指導内容と指導方法の開発に関する基礎研究(3)」東京学芸大学紀要 69 -79、2018